別紙1　　平成　21　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0773200613		
法人名	社会福祉法人ふたば福祉会		
事業所名	グループホーム　せんだんの家		
所在地	〒979-1471　福島県双葉郡双葉町大字長塚字谷沢町25-1		
自己評価作成日	平成21年9月1日	評価結果市町村受理日	平成21年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　福島県社会福祉協議会
所在地	福島県福島市渡利字七社宮111番地
訪問調査日	平成　21年　9月　29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

1、利用者様とご家族様との絆を大切に、年2回ボランテイアさんのご協力を得て芋煮会を実施しています。
2、利用者さんの笑顔を絶やさず、ご家族に安心してお任せいただける施設づくりに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

職員全体に占める介護福祉士の割合が高く、職員が自主的に外部研修へ参加するなどの向上心があり、専門性の高いサービスを提供している。同法人の特別養護老人ホームと隣接しており、災害時には協力が得られるようになっている。事業所は街中ではあるが、同敷地内にある特別養護老人ホームの奥にあり、目立たない立地である。しかし、道路に面するフェンスに目印を設置しており、通りがかりの人に気軽に声をかけたりしながら、地域の行事へ積極的に参加している。利用者の希望により、墓参りや自宅への訪問の際は、知り合いとの交流を行うなどの支援を行い、利用者が慣れ親しんだ以前の生活との接点を継続できるよう図っている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

（セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。）

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者さんの視点に立ち話し合って決めました。対応している職員同士、気付けば理念を口にし注意し合っています。 ・フロアの目に付くところに掲示しています。	職員で話し合い独自の理念を作り上げている。また、年度毎に利用者サービス目標を決めており、理念と合わせてフロアに掲示されている。実際のサービス提供場面では、理念を職員が互いに確認し合うようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	・グループホーム入口のフェンスに「お茶へのお誘い」の言葉を書いたり、声をかけています。子供連れの方や地元の方が少しづつ廻ってくれる様になりました。 ・敬老会、生きがい等への参加、買物、馴染みの美容室や商店、友人宅などへの外出支援。	グループホーム入り口にあるフェンスに、グループホームの存在を示す表示をしたり、地域の方に声をかけるなど、訪問を働きかけている。また、利用者の地域行事参加の支援を通して、地域住民との交流を図っている。	ボランティアの育成や地域の団体への働きかけを行い、地域住民から様々な協力が得られるよう、さらに地域との交流に努めて欲しい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・他町村の介護予防事業の講和に協力（年6回） ・広報の配布 ・ボランテイア（中高生、教師）の受け入れ		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。	・2ヶ月に1回実施しており、その時々の運営に関する問題なども話し合い、助言を得ています。 ・GHが理解され、少しずつ建設的な意見も出るようになりました。	メンバーは家族代表、区長、婦人会会長、包括支援センター所長、町役場担当者、法人理事長、施設長、管理者及び職員であり、ホームの行事や予定、福祉に関する情報などについて報告し、話し合いを行っている。	報告中心の会議から、ホームがかかえる職員だけでは改善が困難な課題を解決するために、具体的な方法を話し合えるような会議としてほしい。例えば、課題ごとに協力者を会議のメンバーに加えるなど柔軟な会議運営を行い、利用者のサービス向上に活かして欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議の委員として参加して頂き、何かある度に相談、助言を頂いている。直近は通所サービスの実現に向け協力を得ました。 ・広報、月次報告書、入退居届けなども提出時情報交換をしてきます。	行政担当者が運営推進会議の委員として参加しており、利用者の入退去の届け出や、利用者に係わる相談などを通して協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束のマニュアルを作成、研修会等にも参加、全員が拘束をしないというホームの方針を理解し、実践しています。	身体拘束マニュアルの作成や研修会の開催により、職員は身体拘束をしないケアについて理解しており、玄関の施錠をしないなどの実践が行なわれている。また、利用者が医療的安静を必要とした場合には、家族の協力を頂くなど利用者に負担にならないよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	・普段の対応時の何気ない言葉のアクセントやトーンに気が付いた時等注意し合っています。 ・併設の特養と共に委員会でも話し合い学習している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・開設当初より利用したケースはありませんでした。 ・いつでも支援できるように学習の機会を作る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・改定時は、説明書を作成し、同意書を頂いています。 ・契約書の内容を説明した上で契約して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見箱の設置、家族会（芋煮会時）を実施。 ・利用者様への満足度調査を実施出来るだけ沿う様にしています。	利用者家族の面会が多く、家族とはその都度利用者へのサービスをはじめ、運営に関する会話を通じて相互理解に努めている。また、ホームの行事に合わせて家族会を開催しており、そこで出された意見なども運営に反映させるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や管理についての職員の声に耳を傾け、活かしていくことを心がけ、職員の働く意欲の向上や質の確保を図っている。	・併設の特養との兼ね合いから難しい面もありますが、GH内では職員間で話し合い出来るだけ意見を反映、自主的に研修会に参加をして学習に努めています。	毎月開催する全職員参加によるミーテングや、担当者会議においてホームの運営などについて意見交換を実施している。また、職員は自主的に外部研修に参加するなど意欲的であり、それらを通じて職員の働く意欲と質の向上を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職場アンケートを実施、あらゆる角度から内容を検討して実施したので、それらも参考に働きやすい、やりがいのある職場環境つくりをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・同じ福祉会として特養との兼ね合いから平均的に研修参加を計画している。 ・多少は人選し、各委員会の勉強会などに繋いでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・GHに付いては、浜北地区で施設交流研修を実施しており、参加させ質の向上に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・安心・安堵に心がけ傍に寄り添い、話を良く聴くようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族の話を良く聴き、本人が安心して穏やかに過せるように、本人にとって必要な協力はお願いする。（ホームだけでは難しい為）		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ご家族と本人の思いを汲み取り、双方が安心して穏やかに過して頂くような対応を心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・大家族としての意識が出来ているように思え、出来る事はやって頂いたり、一緒にやる等、常に利用者さん、職員が隣り合っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・年2回の芋煮会には、ご家族が多数参加して頂いています。 ・本人の状態をみて電話で話して頂いたり、面会や外出をお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・歩行困難の為に、ホームに馴染みの美容師さんに来て頂いているケースもある。 ・全員ではないが、馴染みの商店へ顔を見に外出される事もある。	入居時のアセスメントにおいて、利用者の生活環境を理解するよう努めている。外出時には利用者の希望に沿って、馴染みの場所を訪れるなどその関係が途切れないよう支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・認知度の差によって関係づくりは難しく言葉かけの難しさも痛感し、皆で話し合い平等な関りを持つように努力の反面、軽い方には説明して協力をお願いしています。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・1件あり、ホームを1年前に退所。ご家族より相談あり。現在、以前の担当ケアマネと相談し施設入所申し込み中。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、話し合っていく取組を心がけている。	・日々の訴えを根気よく聴き、必要に応じて職員間で話し合い、統一したケアができるようにしている。	入居時のアセスメントにおいて、生活暦を詳しく把握するなど利用者の理解に努めている。利用者と一緒に職員が園芸を行うなど、利用者の楽しみの支援を行ったり、利用者の思いや意向の実現に向けた支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時や面会時、入居者さんとの会話を通して徐々に情報を得て職員間で共有しています。 ・個々のマップ作成、連携機関からの情報をお願いする事もあります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・個々の好きな様に生活をして頂いていますが、手を出し過ぎて援助していた面もあり、個々を見直し、話し合いで出来る事はやって頂く事にしました。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・毎月1回担当者会議開催。3ヶ月毎のモニタリング、計画の見直しをしています。ご家族の意向も反映。	毎月1回担当者会議を開催し、家族が面会で訪れた際の話や、利用者からの話などの情報も交え職員で協議し、利用者の現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別に毎日ケース記録入力。 ・ケース記録や申し送り、連絡ノート等で情報を共有し実践やプラン作成に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・併設の特養との合同活動（習字、民謡、喫茶、他）や、町社協の生きがいサービス等への加。 ・墓参		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・図書館や生きがいサービスへの参加 ・馴染みの美容室への外出 ・ボランテイアの受け入れ		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・かかりつけ医に継続して全員受診介助。必要に応じて主治医と相談、ご家族の同行をお願いしています。 ・科によっては、月に1回～3ヶ月に1回の受診介助、変化があればご家族に受診結果を報告。	家族の希望もあり、利用者全員が入居と同時に隣接する協力病院を主治医としている。家族と協力しながら適切な医療が受けられるよう受診の支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・普段の個々の健康状態を把握し、変化や気付きをお互いに報告し合い、早期対応に心がけている。(管理者が看護師)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・これまでも入院によって不穏な状態が見られている為、主治医も早期退院に協力的です。 ・入院中は毎日職員が面会に行きます。 ・病院からの申し送りにより情報を交換しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・皆で話し合い、重度化、看取りに付いての方針を作成。ケースによっては同意書を頂いている。　・主治医にも、他GHでの看取りの発表事例を知って頂き、今、現在、出来る範囲内の協力をお願いしています（往診はしない為）。	職員全員で話し合い、利用者の重度化、看取りについての指針を作成している。利用者の状態に応じて家族や主治医と連携をとり、職員を含め情報を共有し、支援にあたっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・何度か急変や事故に遭遇し、その都度、又、振り返りとして話し合っている為、速やかな対応が出来ていると思います。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・月に1回夜間想定避難訓練を実施。 ・緊急通報訓練も行う。 ・近くに東電の寮があり、ふたば福祉会として文書で協力要請に付いてお願いしている。	隣接する特別養護老人ホームとの共同による避難訓練の他、ホーム独自に毎月1回の夜間想定避難訓練を実施している。消防署や隣接する特別養護老人ホーム、東京電力の寮との協力体制を築くように図っている。	毎日の生活の中で、避難箇所の確認や避難方法、手順について、短時間で良いので職員と利用者が繰り返し練習し、非常時に確実に行動できるよう身に付けて欲しい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・職員一人一人が理念を元に言葉使いや態度に注意する様に心がけている。 ・職員同士で助言や注意をし合う事もあります。	会議やミーテイングで話し合い、利用者一人ひとりの尊重、プライバシー確保を守るよう注意している。また、職員同士でもその都度お互いに注意し、確認し合うようにしている。しかし、プライバシーに関する研修の機会が少ない。	利用者一人ひとりの尊重とプライバシーの確保について、内部での研修実施したり、外部研修へ参加するなど、専門職としての質の向上をさらに図り、利用者サービスの向上に努めて欲しい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・個々の言葉や思いに耳を傾け、職員間で共有し、助言はするが無理強いはしない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・主だった予定があった場合でも日々の個々の状況によっては臨機応変に穏やかに過して頂くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・化粧がし易いように配置 ・迷って決められない方やわからない方には職員が季節感を考慮した服装を介助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている。	・調理の下ごしらえを手伝って頂いたり、味見をして頂く。今年の梅漬けは大好評でした。	利用者には、食事や調理に関する作業の中で、その能力に応じた役割を持って頂いている。職員のさりげない感謝の言葉により、利用者のやりがいと楽しみの支援を行っている。また、食事の開始と終了も一斉ではなく、利用者それぞれのペースで行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・毎日の食事や水分摂取量をチエック ・個々の好き嫌いな食べ物を一覧表にしておき、状態によってはペーストにしたり、軟らかくしたり、代替食にして栄養の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後声掛け、出来ない部分は介助をしています。夜間は1日おきに入れ歯洗浄剤に浸している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・リハビリパンツからショーツに変えたり、排泄パターンから時間で誘導したりと努力をしています。 ・歩行困難で職員複数で介助していた方が立位訓練によって一人対応が可能になりました。	利用者の身体能力の低下により難しい面があるが、一人ひとりにあった排泄自立支援の方法を、排泄パターンの把握やトイレ誘導を行うなどして、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・毎日の体操やフロア内外を個々に合わせ散歩したり、水分、繊維を含む食品等を考慮している。 ・下剤や整腸剤を服用している方もおり、力むことができない方には摘便をする事もあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・週に3回となっていますが、希望する時は仲の良い2人で入ったり、夏季の間は入浴日でない方にはシャワー浴等で喜んで頂きました。 ・入浴を拒否される方には時間をずらして声を掛けたりと無理強いはしない。	週3回の定期的な入浴の他、夏場のシャワー浴や気の合う人との入浴、時間にとらわれない入浴など、できるだけ利用者の希望に沿った入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・自分でコントールしている方もいます。 ・それ以外は昼寝を習慣化している方、基礎疾患をお持ちの方には声をかけて休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・処方が変更になれば連絡ノートや受診記録、ケース記録等に記載、又、個人別に薬剤情報提供書をファイルしています。 ・症状観察に努めケース記録に記入し、次回受診の際に報告等もしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・じゃが芋おこし、梅漬け等喜んで手伝って頂き早速食べていました。 ・金魚当番、新聞当番、お膳拭き、他色々手分けして手伝って頂いています。 ・寝酒に毎日、日本酒を飲まれている方もおります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・買物や外出など希望されたり、状態をみながら気分転換に連れ出したりしています。 ・ご家族と協力をしながら自宅を見に行ったり、墓参なども行いました。自宅へ行った場合は隣近所の方にもお会いしてきます。	利用者の身体状態に合わせて、買い物や散歩などその希望に沿って支援、外出している。遠方への外出については、家族の協力を得ながら、墓参りやドライブ、自宅への訪問などの支援を行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・3名程、ホームでお預かりしている他に自分で所持して頂いているが、仕舞い忘れて「なくなった」と混乱されている事もある。 ・移動売店が来た際は分かる方にはお金を渡し、自分で支払って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご家族の誕生日カードを作って郵送したり、希望時は電話をかけてあげてゆっくり話して頂いています。（電話は事務所にありフロアからは離れているのでプライバシーは守れる。）		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・施設交流研修などを通して良い点は取り入れ、季節の生花や造花等を飾り温かみのあるホーム作りを心がけています。	広い食堂兼居間には、季節の花やホームの周囲の咲く野の花が生けられ、装飾などと合わせ季節感に囲まれた居心地の良い雰囲気を作っている。浴室にも観葉植物を置いたり、利用者にとって落ち着ける雰囲気を演出しようとする工夫がなされており、職員の努力が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・テーブルの指定場所の他に、利用者同士がゆったりして過せるように、椅子やソファなども置いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 （グループホームの場合）利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。 （小規模多機能の場合）宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている。	・一人暮らしで、仏壇や家具等、以前の様に配置し、花を飾り潤いのある部屋にしている方もいます。 ・時間で自分を管理している方は冷蔵庫の上に時計を置いて置く、また、寝具一式持ち込んで安眠を得ている方もいます。 ・化粧をする方には手の届く位置に鏡、その他を準備して自分で出来るようにしています。	一人暮らしだった方の場合、仏壇や家財道具の持ち込みがあったり、家族の写真や馴染みの品を持ち込むなど、自由に部屋作りがなされている。また、身体能力の低下している方には、化粧品や普段使う身の回り品を手の届く範囲に置くようにするなど、利用者一人ひとりができるだけ快適に過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・トイレには「便所」、居室にも大きく名前を貼っています。タンスにも衣類別に貼ってあります。 ・毎朝の体操時に、今日は何日ですかと伺うと、手作りカレンダーを見ています。		